

令和2年度いばらき農業アカデミー
『小ギクの開花調節技術と県オリジナル品種』の開催

7月15日（水）に園芸研究所において、いばらき農業アカデミー講座「小ギクの開花調節技術と県オリジナル品種」を開催しました。小ギク生産者、農協及び県関係機関の37名の出席があり、園芸研究所で取り組んでいる開花調節技術の紹介を行いました。

1. 研究成果の紹介

近年、夏場の異常気象により小ギクの開花がばらつき、需要期出荷が以前より難しくなっています。その対策として、従来の電照方法よりも精度の高い花芽分化抑制技術（後夜半電照）と、生育後半の高温条件でも開花遅延しにくい耐性品種について試験結果を交えて紹介しました。また、合わせて生物工学研究所より、7月、8月の需要期出荷が可能な県オリジナル品種を紹介しました。

2. ほ場検討および総合討論

開花調節技術の各試験区や県オリジナル品種の生育状況を、試験ほ場を見ながら検討した後、産地における課題や要望について意見交換しました。小ギクの開花生理に関する質問や、主要病害である白さび病に強い品種育成の要望が挙がるなど、今後の試験研究推進にむけて有意義な機会になりました。

園芸研究所では今後も、生産者の経営安定や所得向上につながる技術の開発や普及を目指していきます。



室内検討



ほ場検討